

第4回瑞浪市道の駅検討委員会

<議事要旨>

日時：令和4年9月5日（月）午前10時～

場所：釜戸コミュニティーセンター

出席委員：原田守啓、水野正、東恵理子、足立弘文、遠藤俊哉、加藤博一、小島博和、
出村嘉史、水野吉衛、溝口純司、山田好彦、渡辺隆夫（敬称略）

欠席委員：足立美樹、小木曾実希（敬称略）

アドバイザー：東濃県事務所長 尾関新太郎、多治見土木事務所長 小野弘康（敬称略）

事務局：瑞浪市 建設部 都市計画課

■会議概要

1. 開会

- ・委員委嘱、解職に伴う紹介

2. 会長あいさつ

会長 前回の検討会開催から1年以上経っており、検討委員会のメンバーも一部の方が交代されています。私は、土木工学の中でも河川を専門としており、道の駅が計画されている場所が、土岐川と佐々良木川の合流部で、水辺の魅力をきちんとまちづくりの中に資源として位置づけることや、防災拠点の活用にお役に立てるのではということで会長を仰せつかっています。後で説明いただく同じ岐阜大学の出村先生の方がより専門性の部分においては、まちづくりに近いところにおりまして、立場上私が会長となっておりますが、二人でこの議論が始まった段階から一緒にやらせていただいております。後ほど改めて事務局から基本計画の前身である基本構想を定めるまで、かなり丁寧な調査あるいは地元の人々との対話を含めてやった結果として、「まちとともに育つ道の駅」とコンセプトが設定されています。今まさに基本計画を定めている最中ではありますが、確実に育っている部分もございまして、経緯については後ほど、出村先生や地元プレイヤーとして活躍していた方々から、この数年間どんなことをしてきたか振り返りながら、基本計画の議論の続きを私たち検討会としてはやっていきたいと思っております。釜戸という土地、瑞浪市という地、さらに広域においてこの場はどういう意味を持つのか、どういった人々が生業を立て活躍をされているのかを具体的にイメージしながら具現化していく段階

に入っておりますので、ぜひ参加者の皆さまにおかれましては、忌憚なく発言していただきたく思います。

- ・傍聴希望者を確認・承認（傍聴人6名）

3. 議事

会 長 今回の主な議事としまして、道の駅基本計画（素案）についてとなりますが、前回から時間が空いておりますので、この間の経緯について事務局から説明を受けてから議事に入りたいと思います。
事務局から経緯説明をよろしくお願いします。

- ・事務局より経緯の説明を行った。

会長 前回から今回の間に、国との協議の進展や地域で検討会が組織されるなどの動きがありました。また、岐阜大学の出村先生が地域に入り、先生を中心にして計画地で実証実験が行われました。その経緯等について、引き続き出村先生からお話しいただきたいと思います。

- ・出村委員による瑞浪市と岐阜大学の共同事業の報告

会長 出村先生ありがとうございました。出村先生からお話しいただいたように、ここ1、2年でコトがこの地域で起こり始めています。この基本計画はどちらかというと施設の計画や運営、道の駅という場所にフォーカスされた基本計画になっていますが、地域の人や地域の関わりも含めて今後の議事を進められればと思います。では、次第3の議事、瑞浪市道の駅基本計画（素案）について事務局から説明をお願いします。

(1) 瑞浪市道の駅基本計画（素案）について

- ・事務局より資料1の第1章から第3章までの説明を行った。

会 長 今回の検討内容は非常に多いため、意見交換のパートを前半後半に分けて行いたいと思います。目次をご覧くださいますと、6章構成になっています。事務局から説明がありましたが、1章道の駅整備の目的、2章前提条件の整理、3章コンセプトとなります。今まで提示されてきた部分、新たに事務局に追加していただいた部分もありますが、時間の経過に伴って色々と新しい話題や地域資源が増えていることがあるかもしれませんので、このコンセプトが生

まれた部分について時間をとって意見交換したいと思います。事務局に確認ですが、基本計画策定までにもう一度くらい議論のタイミングがあると考えて良いですか。

事務局 はい、その予定です。

会 長 もう一度検討の場があるということです。お気づきになった部分があれば、過去に提示された部分、社会状況の変化、新たな地域資源が掘り起こされた等あると思いますので、ざっくばらんに意見交換をしたいと思います。初見の方も多いと思いますので時間を長めに取りたいと思います。

出村委員 12ページに、道の駅のコンセプトについて記載があり、まちのビジョン①～⑤が載っています。ここについてそこまで議論が深まっていたようには思っていなかったのですが、議論された内容がまとめられると、こういった見方になるのかなと思いますが、ビジョンの提示は大事だと思うので、少し揉むべきだと思いました。特に、まちのビジョン①日常生活に必要な生活サービスが備わっていると冒頭に掲げられていますが、コンビニエンスストアのイメージがあるのではないかと疑っています。つまり、「よろずや」イコール「コンビニエンスストア」で本当に良いのでしょうかというところを、もう少しちゃんと議論した方がいいかなと思いました。必要なものを買える場所になるというのは確かにアンケートの中で要望としてありました。ただ、それが本当に経営として成り立つのかどうかというところは、違う判断がされるのではないのでしょうか。よろずやのメイン機能、最重要な機能、つまり、まちのビジョン①にあがってくるような機能として、ここに来れば生活必需品が手に入ることを旗として掲げてよいのか、というところに疑問を持っています。今後、今と比較して多くの人達が、ここに立ち寄るようになる現実があります。通過交通がここに立ち寄る可能性がある、その時に、普通にどこにでもあるようなコンビニ、あるいはもう少しクオリティーが高いのかもしれませんが、それが本当に目玉になるのかというところがあります。事例としては、道の駅で未来コンビニという事例があり、そこは大変面白いです。コンビニですが、チェーン店が経営するのではなくて、地元で立ち上げた会社が、そこでしか手に入らないような商品をコミュニティーで開発して、どんどん提示するというような仕組みになっています。すごく面白い仕組みで、見かけはコンビニですが、生活必需品がそこで手に入るというコンセプトではなかったはずです。そういう風に器の面白さと本質、ビジョンとして持つべき本質が乖離していませんかということを、皆さんはどう思いますか。

会 長 確認になりますが、出村先生から話のあった、12ページのまちのビジョン①～⑤は今回初めてでたものでしょうか。

事務局 こちらについては、基本構想に記載のある内容を掲げました。

会 長 「まちとともに育つ道の駅」というコンセプト自体は良いと思うが、地域にとってのまちのビジョンというと、いわゆる釜戸とか周辺地域のビジョンのことになってくると思います。地域から参画いただいている皆さまのお考えやご意見があればお伺いしてみたいと思います。どなたからでも結構ですが、水野委員いかがですか。

副会長 ビジョン①については、かまど道の駅検討会でも意見が出たのですが、今、民間事業者が「旨味屋号」という形で、車で地域を回っています。釜戸だけのことを考えず、日吉や大湫のことも考えると、「日常生活に必要な生活サービス」として、医薬品の販売についても考えていただきたいです。そういった視点から、参画してきたところが拠点となれば良いと思いますし、「旨味屋号」のような民間事業者と連携することで、買い物難民への対策としていただきたいと思います。

会 長 「旨味屋号」というのは、移動スーパーということでしょうか。

副会長 そうです。あと、前回の基本計画検討から変わってきた地域資源としては、釜戸町内でパレオパラドキシアという化石が発見されました。化石発掘といった部分も交流人口を増やしていく上では有効に活用できるのではないかと考えています。また、12ページに地図がありますが、道の駅を拠点とする周辺地域として釜戸と大湫となっていますが、中山道でいえば細久手宿と大湫宿があるわけですし、八百津町へ繋がる道路も計画されていることから、もっと広域的な視野を入れていってもいいと思います。

会 長 もっと広域的な視野というのは、今、周辺地域との関係性が図示されているのが7ページと12ページとなりますが、もう少し広い視点ということでしょうか。

副会長 五月橋という八百津町の人道の丘公園方面へ抜ける道が整備される予定で、アクセスが良くなると思います。また、道の駅と道の駅との繋がりという点では、「らっせいみさと」などへの交通アクセスも良くしていくのもいいのかなと考えます。

- 会 長 ありがとうございます。地域から参画いただいている委員の皆さまで、特にコンセプトである、まちと場の関係性について、12ページのまちのビジョンのところに記載されているところですが、この点の受け止め方についてコメントをいただきたいのですが、いかがでしょうか。
- 東 委 員 まちのビジョンで、根本的に気になったのが、どこの人を見てのビジョンなのかということだと思います。この道の駅が観光客のためのものなのか、住民のためのものなのかということがあつて、住民だけを見ると人口が少ないので、来る人が少なく経営的に大丈夫なのかなというのが懸念としてあります。また、日用品というのは、非日常を求めてきた観光客には必要なく、交流人口を増やして、それでも日用品が必要になる場面は何かと考えると、例えば、お試し移住やワーケーションの拠点であれば繋がってくると思います。恵那市にも道の駅ができるので、そこと競合した際に、どういう色を付けて差別化をしていくかというのは大切なことだと思いますが、このビジョンを見る限りでは、どちらを向いていけばいいのだろうと感じますので、これから議論の余地もあるのかなと思います。マーケティングの視点となりますが、どこの商圏の人たちが、どこに来たいのかといったコンセプト調査も必要なのかなと感じました。
- 会 長 ビジョンに書かれている文言そのものに対する違和感というよりは、これをどう具体化していくのかといった視点が必要ではないのかという意見として受け止めたらいいでしょうか。
- 東 委 員 はい。ビジョン①～⑤を見る限り、これが共存していけるのかなというのが疑問です。
- 会 長 実は、私も改めて読み直した時にコロナ前の価値観だなと思っていて、今、私たちが見ている世界や感じている世界は実は大分変わっています。事務局にお尋ねしますが、基本構想の時に一度議論されてまとまったものなので、文言を直すというよりは、実現する過程において私たちの生きる世界に合わせて再構成するという考え方で進めさせていただいた方がよろしいでしょうか。その前に出村先生どうぞ。
- 出村委員 基本構想にある文言を大きく変えるのは、ちょっとやりにくいと思いますが、我々は原田先生がおっしゃったように、コロナ以降の違う時代を生きていると感じます。まちのビジョン①～⑤の抽象度が高いおかげで読み替えられるかもしれないなと思いました。日常生活に必要な生活サービスについて、先程、

水野委員が言われたような、移動販売みたいなものが実現しているのであれば、コンビニエンスストアを道の駅に設置する意味は無いかもしれないと思います。本当の生活必需品は、違うインフラの方が向いている可能性があります。その時に、必要な生活サービス（アメニティ）やライフスタイルを支えてくれる大きな基盤が何かと考えると、大きく包んでくれるような公園も実は必要なアメニティとして捉えられるわけです。つまり、コンビニのイメージは、違う世界を見てもいいのではないかと、議論の中で可能性を感じました。まちのビジョン⑤のところで、観光の玄関口という観光にも含みを持たせ、広い地域の中でもっと広域に繋いでいけるような玄関口にするという意味であれば、実証実験で実施したような、電動自転車に乗って広域に繋ぐみたいなこともやり方としてあるのではないかなと考えています。

小島委員 まちのビジョンが書いてありますが、地図を見ると計画地があつて、きなあつた瑞浪が直ぐそばにあり、恵那市武並町にも新しく道の駅が計画されているということで、色分けはどのようにしていくのかと心配しています。今、きなあつた瑞浪がハム工房で大変苦しんでいると聞いています。まちのビジョン①の①で、必要な生活サービスを備えると書いてありますが、きなあつた瑞浪と同じものが出来てしまったら、行政としてどうだろうかと感じました。先程、東委員も言われましたが、対象をどこに絞っていくのか、外から来た人を観光で呼ぶものなのか、それとも地域を限定とした釜戸とか、そういったところの人を視点に捉えてやっていくための道の駅なのかが、非常に不安に感じるどころです。

会 長 これまでの議論の中で、意見を2点いただいたと思います。まず1点目が、きなあつた瑞浪や、恵那市の道の駅との関係性をどのように考えるかです。先程、水野委員からいただいた広域で交通動線なども変わってきているので、もう少し広域でものを捉え直した方が良くはないかという指摘にも共通する部分もあると思います。2点目は、物販施設に関するところで、きなあつた瑞浪や周辺施設との差別化を、どのように考えていくかです。今まで何度か議論してきたような気もいたしますが、事務局からフォローしていただけると有難いです。

事務局 きなあつた瑞浪との共存共栄については、基本構想の中でしっかりと議論されています。具体的には、きなあつた瑞浪は直売機能を中心とした施設になります。持ってくる商品が足りないという議論もあり、かまど道の駅には当面直売機能は導入しないという方向性が基本構想の中で議論がされています。また、東委

員から誰をターゲットにしてくのかという基本的な話がありましたが、瑞浪市道の駅は、地域の方もターゲットにしなが、この地の地域資源を活用して外からの人も呼び込みたいと、この両方をターゲットにしています。よって、一つは、よろずや的な地域を支える機能については地域を対象にしていますし、周辺のこの地域資源を活用する点では、外の人を呼び込みたいと考えています。また、その地域資源を活用しながら周辺部の観光資源と連携しながら進めていくというのが瑞浪市道の駅の基本的な方向性で、恵那市がこれから基本計画を策定されると思いますが、そことの差別化もしっかりと図りながら、きなあた瑞浪、恵那市道の駅とも共存共栄ができるような道の駅を目指していきたいと考えています。

会 長 1つ事務局に対してお願いがあります。基本構想で議論した重要なポイントについては、基本計画に何らかの形で文言として引き継いでいただきたいです。この計画が最終的に世に出たときに、同じようなことを心配される方がもの凄く沢山おられると思います。よく聞かれそうなことについては、こういった議論を踏まえてこういうふうを考えていますというのは少し入れておいた方が良いと思います。きなあた瑞浪に議論が及びましたので、水野委員に最近の現状も踏まえて、この計画に対するお考えをお聞かせいただけないでしょうか。

水野委員 7月1日からきなあた瑞浪の店長をしています。土曜や日曜の休日に、名古屋圏の方が長野に行った帰りに寄られることが増えているというのが最近の状況です。以前は午前中に寄られて午後は閑散としていることが多かったと聞いていましたが、現状は段々と増えている状況です。また、行動する時間もずれているのかなと感じます。先日、開田高原からトウモロコシを仕入れて販売した時は、朝の9時から名古屋ナンバーの車両が訪れていました。告知はホームページに掲載したくらいでしたが、来店される方が非常に多かったです。開田高原から1日に1,500本ほど仕入れているが、ここ2回くらいは1日で1,400本くらい売れているというのも特徴的なところ。以前は2日ないし3日かかっていた本数の消化ですが、最近は1日で殆ど売り切っている状況です。日曜日ですと朝から昼過ぎまでずっと店が混んでいる状況です。以前は朝のピークが過ぎると閑散となることもあったみたいですが、最近は来店者が意識的に行動時間をずらしているのかなとも感じます。また、今、一番思っているのは、モノを買いに来るのではなく、コト消費だということです。何を求めて動かれるのか、どういった人が何を求めているかが見えていないと、自分たちが提供しようとするのが受け入れられない。物販にしても同じ

ですが、誰をターゲットにしてモノを提供するのかという視点がないと、最近
は作っただけで終わりというパターンが非常に多いので、その点は考えてい
く必要があると思います。また、求められるのは物販だけでなく、その後の対
応も必要であり、こういったコト消費を提供できるかということが大きな視
点だと考えると、その点はまだまだ詰められていないので、これからもっと考
えていく必要があるのかなと思います。

副会長 道の駅のコネクトですが、瑞浪市及び釜戸地区を取り巻く環境という形で
出てしまうと、地域としては釜戸になってしまいます。瑞浪市には、大湫もあ
れば日吉、土岐町、稲津、陶もあって、中心市街地以外のところは人口減少な
どで苦しんでいます。そういった点で、この道の駅が広がりのある感じになれ
ばいいのかなと思っています。

会長 先ほど話された、広く周りの地域を含めた捉え方をした方が良いという同じ
ご意見かと思います。計画の7ページ、12ページに、この地域が主語となっ
ている絵となっていますので、市民意識調査も含めて周りの地域との広域的
な広がりをもっと絵に入れた方が良いと思います。地域資源としては、大湫
との関係性や、いろんなことで繋がりは始めているので、2、3年前とは見てい
る状況が違います。隣接した地域との関係性も含めて入れておいた方が良い
と意見として申し上げます。次に4章以降に新しい章が増えていますので、事
務局から説明をいただきたいと思います。事務局お願いします。

・事務局より資料1の第4章から第6章までの説明を行った。

会長 4章の道の駅の導入機能について、以前から整理されてきたものではありま
すが、基本計画においては、こういった施設を、どれくらいの規模で導入して
いくのかということ、この基本計画では数字で整理されています。5章の施
設整備計画では、瑞浪恵那道路の盛土部を貫き北と南を繋ぐボックスカルバ
ートが計画されていましたが、そもそもボックスカルバートを作ることで既
設水道管に与える影響が大きくなる可能性があるなど、もろもろの問題があ
りますので、無しにしようということになりました。そういった中で、今
ある施設群を活かしながら、こういった施設を魅力ある場所として配置して
いくということで、具体的な図は示されていませんが、基本的な考え方につい
ては5章で提示していただいている状況です。そして、今日の非常に大きな話
となりますが、第6章の道の駅の整備、運営方針ということで、こういった形
でこの場を運営していくのか運営主体をどうしていくのかについて、概ね今

までの検討を踏まえた形で、事務局の素案というか、たたき台が示されています。議論に入る前に私から事務局に2、3確認したいことがあります。26ページに道の駅の整備手法について、一体型整備と単独型整備の記載がありますが、この道の駅については、一体型で進めていくという考えだと思います。基本計画の中には、一体型で整備するということが、どこにも記載されていないような気がします。それが一点目です。それから、先程、管理・運営については、地域のプレイヤーが参画可能な形で、民間事業者に基盤的な経営を引き受けていただく形で、市の基本的な考えを示していただきましたが、28ページの文章には、それがはっきりと読み取れる形で書かれていないと思います。いかがでしょうか。

事務局 当初から国との一体型整備を目指して協議を進めていますが、最終的に確約されるのは、国と協定を締結してからとなります。確約がされていない現状を踏まえまして、国との一体型整備という記載はしていません。

会長 基本計画が世に出た時に、結局、どうなるのかと読んだ人が分からないというところがありますので、確約できない事情があるにせよ、意向については記載した方が良くと思います。少なくとも現状では、勝手には記載できないということで、理解しておけばよろしいですね。

事務局 管理・運営については、基本構想の時に掲げていた地域主体の運営組織から、そういう形ではなく、地域が関わることができるような民間事業者の運営へと大きく変更した点を踏まえまして、一度皆さまからご意見をいただきたいという考えから、明確な記載はしていません。今回の議論の中で、ご理解いただけるのであれば記載していきたいと考えています。

会長 事務局からの提案といたしますか、たたき台となります。まだ、この検討会は最終的に基本計画がフィックスされるまでに1回程度議論の場がありますし、今日何かを決めるというわけではありませんので、疑義も含めて4章の導入機能、5章の施設整備の考え方、6章の管理・運営について議論していきたいと思えます。

出村委員 16ページに民間事業者の意向とありますが、前回の委員会で、事務局から他の場所で実際に生業を行っている事業者へのアンケート結果が提示され、その資料のまとめだと理解しています。これが全ての答えになるとは言い切れませんが、この書き方だと重要なことのように理解される可能性があります。

すので、別枠にできないでしょうか。こういった意見もあります程度でいいと思います。この参考意見が根拠になり、次の議論に行き過ぎているように感じています。印象的なのは、「コンビニぐらいであればできなくもない」という回答があったと思いますが、それが根拠となっているところが怪しいと感じています。ビジョン①の必要な生活サービスにあてはまっているから、これでいけると落とし込まれているのではないか。よろずやが重要なコンセプトになりつつありますが、広辞苑で調べると「なんでも屋」と書いてあります。ここにどんな責任を持たせるかがすごく重要であり、6章の管理・運営形態について、よろず屋がどこまでを担うのが重要になりますので、明確化するべきだと思います。「南池袋公園」の事例では治安の悪い公園を目通しの良い芝生広場とし、傍らに建物は公設で民間が運営するカフェが誘致されました。カフェの売り上げの一部を公園管理費に充当している公設民営の事例です。当初は場のイメージがあまりに悪く、上手くいかなかったため、公園運営に民間が入りました。この事例では土地と建物、そしてもう一つサービスがないと場の魅力が生まれませんでした。地面と建物、地面の上でおこることを分けて考えてもいいのではないかと考えています。道の駅施設のよろずやはコト消費を生み続けるコンテンツを活用する器とし、地域を理解した民間企業が運営する。公園は地域の人々が管理してはどうかと考えています。稼がないといけないという使命を持った瞬間に前に出られなくなったのがここ数年でありました。ただ、この地域の人々は地域資源を活用してアクティビティを生み出すことが得意だと感じるので、よろずやの運営を担う民間のプロフェッショナルな人々と組むと色々な可能性が生まれると思いました。公園やよろずや、地域資源を活用して遊べる人々の3者がいると運営が回ると考えています。また、いずれ議論できればと考えていますので、この考え方が排除されない基本計画にさせていただきたいです。運営体制を現時点で定めるのではなく、今後議論ができて、柔軟な対応ができるような基本計画としてさせていただきたいです。

会 長 私も出村先生と同意見であり、管理の部分については、ここまでの議論を大事にさせていただける業者に任せるようにしないといけないので、経営のスキームまでここに記載する必要はないと考えます。また、16ページの民間事業者と6章の民間事業者は、まったく違うものになると思います。また、意向とは単純に意見を聞いてみたにすぎないので、コンビニが一番いいのではと無造作に書いてあることや、16ページに結論めいたことを記載することは危険であると考えます。

顧問アドバイザー 道の駅はトイレ休憩と産直のものを買うというイメージになりがちですが、

県では新しい観光ということでSDGsの観点、国際認証の基準に基づいたプログラムとしてプロジェクトを今年から始めています。瑞浪市の釜戸、大湫、日吉などのエリアは魅力的なエリアであり、道の駅を観光の拠点として活かしていくべきだと思います。出村先生からご紹介のあった釜戸での活動があり、活動する人もいる、また、大湫町の大杉再生のプロジェクトがあり地元の人々と外から来た若い人たちとの動きが起こっています。ビジョンのところで、機能のところに色を出して、観光の拠点なり瑞浪市のコンセプトを早めに打ち出した方が良いと思います。

小野アドバイザー 5章の施設整備計画について、土岐川と佐々良木川を管理する多治見土木事務所の立場からは、施設配置計画の案のイメージが無い中で河川と関わるイメージ図が載せてありますが、これについても施設配置案とあわせて検討を進めていただきたいと思います。20ページの断面イメージで単純化されていますが、水面と建物間に低い低地があり車が記載されています。浸水部分であるので駐車をイメージしているのであれば、対応をどうするのか等、気になるところがありますので、もう少し検討していただきたいと思います。広場の整備イメージについても、水面と建物間に芝生、公園とエリアを区切っていますが、緩勾配にして利用されたいと見て取れます。グランピング施設といったその場に過ごす場所については、傾斜があるより平面の方が過ごしやすいと思いますので、検討していただければと思います。

会 長 事務局にお尋ねしますが、河川管理者との協議は、河川区域、河川区域隣接部分について今後行っていく前提でよろしいでしょうか。

事 務 局 今後、しっかりと事前協議を行っていく予定です。

溝口委員 まちのビジョンの中で、働く場が生まれるとありましたが、自分の同世代は働く場がないことが理由で、地域に住まなくなった人もいます。民間に運営を任せて、ここに住む人が運営に関わって働け、働く場が生まれるのは理想の形だと思います。もともとは地元の人が運営主体という計画であったが、地元の人だとは限られてくるので、プロに根幹を任せ、プレイヤーが地元の人となれば良いと思います。道の駅が働く場、雇用の場となることにも期待しています。

東 委 員 運営主体をこれから募集するかと思います。どういった業者を、どのような方法で募集をする想定をしていますか。

事務局 29ページにスケジュールを載せており、令和5年度にサウンディング調査を予定しています。サウンディング調査により、地域資源を使って何ができるのか、こういった事業者が参画可能かなどを調査したいと考えています。

会長 29ページをお示しいただきましたが、スケジュールとしまして、令和5年度にサウンディング調査、令和6年度に運営方針、運営者選定を行う予定となっていますので、こういった役割を期待するかをきちんと整理すべきだと思います。

事務局 運営方法は非常に重要なことだと理解しています。継続的に地域のためになる道の駅を実現するため、基本計画のコンセプト及び地域との関わり合いの2つの柱をもって、運営主体となる事業者がこういったものになるか探りながら確定していきます。また、一番重要なことは基本計画の中に、基本的な方向性をどう落とし込むかが重要だと考えています。

会長 前回委員会で提示いただいた資料など運営事業者に関する議論を整理してもらって、地域の方々へ共有しながら進めていただきたいと思います。ありがとうございます。本日の議事は以上となります。

以上